



ゆすはら町議会だより

四万十源流

平成25年 7月20日

第84号

題字 議長 高橋基文

特別な夏がある!!

みんなの思いをひとつに挑んだ夏の大会
一回戦で見事勝利した梶原高校野球部

— 5月臨時会・6月定例会 —

| | |
|--------------------|----|
| 5月臨時会 | 2 |
| 行政報告 | 3 |
| 6月定例会で決まったこと | 4 |
| 3議員(二宮・長山・下元)が一般質問 | 6 |
| 委員会から | 9 |
| 意見書提出 | 11 |

5月 臨時会

平成25年梶原町議会5月臨時会（第309回）は、5月1日に開催した。

臨時会では今後2か年の議会運営を託す、正副議長の選挙を行い、議長に高橋基文氏（高橋氏4票、土釜清氏4票）、副議長に西川慶男氏（西川氏4票、長山和幸氏4票）をそれぞれ抽選により選出した。

また、議会運営委員会委員、各常任委員会委員及び議会広報編集委員会委員の選任も行われ、新しい組織が決定した。さらに、執行部提案の専決処分の承認を求める3議案について全て原案どおり可決した。

高橋議長



【略歴】

大阪学院大学卒、町議2期目、総務教育厚生常任委員長、議会運営委員長を歴任、48歳

西川副議長



【略歴】

越知面中学校卒、町議6期目、総務教育厚生常任委員長、議会広報編集委員長を歴任、65歳

※年齢は5月1日時点

各委員会組織

議会運営委員会

- 委員長 二宮近雄
- 副委員長 下元秀俊
- 委員 中岡俊輔
- 西川慶男

総務教育厚生常任委員会

- 委員長 中岡俊輔
- 副委員長 土釜清
- 委員 二宮近雄
- 西川慶男

産業建設常任委員会

- 委員長 下元秀俊
- 副委員長 長山和幸
- 委員 高橋基文
- 市川岩亀

議会広報編集委員会

- 委員長 土釜清
- 副委員長 長山和幸
- 委員 下元秀俊
- 二宮近雄
- 中岡俊輔
- 市川岩亀
- 西川慶男



議案審議

専決処分

〔平成24年度 一般会計補正予算（第6号）〕

地方譲与税、地方交付税、国庫支出金、諸収入及び町債の確定に伴う補正予算で、平成25年3月29日付で行った専決処分の承認を求めるもの。

可決（全員賛成）

〔町税条例の一部改正〕

〔国民健康保険税条例の一部改正〕

地方税法の一部を改正する法律の公布、施行に伴い、それぞれ条例の関係条文の改正で、平成25年3月30日付で行った専決処分の承認を求めるもの。

可決（全員賛成）

報告事項

〔工事請負契約変更の専決処分の報告〕

6月 定例会

議会6月定例会は、6月10日、11日の2日間の会期で開催した。

一般質問には、3人の議員が「町長は、今年12月に1期目の任期満了となるが次の出馬をどのように考えているか所信を問う」「こども園について」「子ども条例制定について」「農業振興について」など町長の考えを問いただした。

議案審議では、平成25年度一般会計補正予算、職員の給与の臨時特例に関する条例議案など今定例会に提案のあった補正予算、町条例の制定など全て原案どおり可決した。

町長は、平成24年3月定例会以降における諸般の行政について、次の項目について報告した。

○総務課関係

- ・選挙人名簿登録者数
- ・県境防災訓練
- ・南海トラフ巨大地震による被害想定について
- ・四国電力(株)と災害協力協定
- ・災害時の医療救護活動及び医薬品等の供給に関する協定



県境防災訓練で国道440に降り立ったドクターヘリ

○企画財政課関係

- ・ゆすはら応援隊
- ・第8期若者定住対策審議会委員委嘱
- ・平成25年度「対話と実行行脚」尾崎知事来町



行政報告する町長



道路改良工事の技術支援に関する協定を締結する尾崎高知県知事と矢野町長

○環境整備課関係

- ・町道佐渡鷹取線の道路改良工事における梶原町への技術支援に関する基本協定式典開催
- ・移動土木事務所の開催
- ・林道施設点検の実施
- ・町内基幹作業道の状況調査の実施

○保健福祉支援センター関係

- ・介護職員初任者研修開講



みんなで協力して森林ボランティア

○産業振興課関係

- ・梶原町森林ボランティア協働の森づくり事業開催

○出納室関係

- ・梶原町指定金融機関の期間変更契約

○教育委員会関係

- ・梶原町一貫教育支援センターの設置
- ・8年生職業体験

議案審議の概要

6月定例会に提案され審議した議案についての概要(質疑は抜粋)

予算

〔平成25年度 一般会計補正予算(第1号)〕

歳入歳出それぞれに8千274万5千円を追加し、その総額を47億9千747万5千円とするもの。

主な内容は、職員の給与の臨時特例措置に伴うシステム改修費50万円、シカ・イノシシを対象とした国の制度による集中的な緊急捕獲活動助成金376万円、町の文化財「ゆすはら座」の屋根の雨漏り修繕1千521万5千円、繰越金の法定積立金として、財政調整基金積立金に3千935万8千円、梶原ならではの保健・医療・福祉の充実に必要な財源確保のため保健文化社会福祉基金積立金に2千364万2千円の増額。

可決(全員賛成)

条例

〔梶原町職員の給与の臨時特例に関する条例の制定〕

防災・減災事業に国と地方が共同して取り組むことの重要性や想定されている南海トラフ巨大地震への対策の重要性・緊急性を鑑み、本年7月分から来年3月分まで、職員給与を減額措置するもの。

可決(全員賛成)

○質疑

問 長山和幸

減額は好きではないが、防災・減災のためということも理解できる。用途をしっかりと明確にせよ。

答 町長 矢野富夫

国と地方の関係や国への要望、提言もしていくなど、総体的に考え対応していく。

問 西川慶男

今回は、減額対象としていないが、管理職手当の額が低いと思われる、今後検討をすべきでは。

答 町長 矢野富夫

県下の中でも低い方だと思っている。評価も含めたもので考えないといけないと思っている。

その他

〔委託契約について〕

「平成25年度 国民健康保険梶原病院 病院情報システム委託業務」について、入札結果により委託契約を締結するため「議会の議決に付すべき契約及び財産の取得又は処分に関する条例第2条」による議決を求めるもの。

可決(全員賛成)

○質疑

問 下元秀俊

電子カルテを共有するのは町内だけなのか。救急を含め町外への転院転送のときはどうなるのか。

答 病院事務長 上田善啓

今回導入の電子カルテは、町内の病院と診療所での共有となる。町外へ転送する場合は、現在でも画像データなどについて転送している。



【教育委員の選任について】

任期（7月31日）満了となる教育委員の選任について同意を求めるもの。

委員は、再任で

氏名 吉門 志茂（よしかど ともしげ）

住所 梶原町田野々

同意可決（全員賛成）



報告事項

【梶原町土地開発公社の経営状況の説明書】

【一般社団法人津野山畜産公社の経営状況の説明書】

【株式会社雲の上の経営状況の説明書】

【財団法人梶原町若者定住農林業振興基金の経営状況の説明書】

【ゆすはらペレット株式会社の経営状況の説明書】

【繰越明許費繰越計算書】

農業委員の推薦

これまで、議会の推薦を受けて学識経験者として農業委員を務めていた高橋基文氏が、議長との兼職について考察し、農業委員を辞任し、農業委員会の同意を得、町長から推薦依頼があったので、選任による委員を推薦するもの。

農業委員の推薦は、本人も農業を営んでおり、知識と経験のある梶原町茶や谷の下元秀俊氏を満場一致で推薦した。

（任期は残任期間で平成26年7月19日まで）

閉会中の所轄事務調査事項

各委員会は、9月定例会までの閉会中に、次の事項を調査します。

- 議会運営委員会 ・平成25年9月定例会の運営について
・委員会のあり方について
- 総務教育厚生常任委員会 ・若者定住について
・町立図書館の役割と可能性について
- 産業建設常任委員会 ・町の産業振興について
- 議会広報編集委員会 ・議会広報の発行に関する件

寄付のお礼

この度、次の方から「議会だより 四万十源流」に対し寄付をいただきました。紙面をもってお礼とご報告を申し上げます。

- 名古屋千種区 加藤 朝弘様
- 兵庫県明石市 前田 仁郎様
- 横浜市西区 味元 信夫様
- 中学校昭和36年卒業生



定例会後さっそく議会広報の編集に取り組む委員

6月定例会での決定他

12月の町長選挙に 出馬するかどうかの所信を問う

問 二宮近雄



矢野町長は、平成21年12月の選挙において、人と人の絆を大切にすると、みんなが輝く活力ある「ゆすはら」を創造するとの公約の元、6つの大きなキーワードを設定して見事無投票当選をいたしました。

その一つ
人と人の絆を大切に
する人の尊厳が守られて
いる社会をめざす

- 二つ 梶原ならではの保健・医療・福祉の充実をめざす
- 三つ 高齢化と過疎地域でも災害に強い梶原を目指す
- 四つ 暮らしの安定・産業の振興発展をめざす
- 五つ 自信あふれる梶原人を育てる教育の確立をめざす
- 六つ 住民との対話と住民の満足度を高める新しい行政運営をめざす

二つ 梶原ならではの保健・医療・福祉の充実をめざす

三つ 高齢化と過疎地域でも災害に強い梶原を目指す

四つ 暮らしの安定・産業の振興発展をめざす

五つ 自信あふれる梶原人を育てる教育の確立をめざす

六つ 住民との対話と住民の満足度を高める新しい行政運営をめざす

現状を、第6次梶原町総合振興計画と照らし合わせ町内全体を見てみると、梶原町の現況は、栄養の効いた土づくりができたに過ぎないと私は感じて

二つ 梶原ならではの保健・医療・福祉の充実をめざす

三つ 高齢化と過疎地域でも災害に強い梶原を目指す

四つ 暮らしの安定・産業の振興発展をめざす

五つ 自信あふれる梶原人を育てる教育の確立をめざす

六つ 住民との対話と住民の満足度を高める新しい行政運営をめざす

現状を、第6次梶原町総合振興計画と照らし合わせ町内全体を見てみると、梶原町の現況は、栄養の効いた土づくりができたに過ぎないと私は感じて

二期目に 挑戦

答 町長 矢野富夫



私は平成21年12月に町民の皆様の絶大なご支援を賜り第4代の町長に就任をさせていただきました。そして、この4年間ににつきましては二宮後援会長をはじめ、議会議員全員皆様、区長会、各種団体、企業関係、町民の皆様のご指導をいただき今日を迎えることができましたこと心から厚く御礼申し上げます。

私は、行政の基本は「自治体経営は自立である」

との考え方で、自立とは、自分で全て完結することではなく、周囲とさまざまな関係を築き、資金の提供をうけ、それに見合う価値を生み出している状態のことで、その価値とは財貨のみでなく、人が役立っていると思う物やサービスのことである。

平成23年度に作成した第6次梶原町総合振興計画「人と自然が共生し輝く梶原構想」では10年後の人口を4千人と設定し「健康」「教育」「環境」「産業」「文化」「くらし」の6つの言葉をキーワードに6つの社会、先ほど質問された内容のとおりであり、この政策を念頭に松原方面の道路整備の確かな手ごたえ、命の水の確保、がけ崩れ住家防災対策事業、NPO法人「絆」の立ち上げ、集落活動センターの開所、そして、人材育成の重要な基礎となる保幼小中高一貫教育のスタート、また、西宮をはじめ、近隣市町村との交流事業、社会福祉協議会の法人化、カルスト会の施設福祉の課題など積極的に推進してきたが、まだ第一歩を踏み出したに過ぎず、種をまき、花を咲かせるには途中の段階であると思っている。

議会をはじめ町民の皆様のご支援をいただくならば、二期目について立候補を決意し、全身全霊をかけて梶原町発展のために努力をいたしますので今後とも叱咤激励をよろしくお願いいたします。

一般質問

こども園を拡充・充実せよ!!

幼児教育が教育の原点

問 長山和幸

答 町長 矢野富夫

「こども園」は、質は少しちがいのもあるが、学校同様、教育の現場と考えている。

しかし、教育現場に相応しい子どもたちの健全な成長を育む施設、組織、運営状況は課題が多い。

特に施設面においては園長室、相談室、保健室、更衣室、そして園庭、グラウンド等々整備すべきではないか。

組織、運営においても副園長制の導入、栄養士、保健の先生、事務職や用務職、またそれにかわる人の配置等課題は多い。さらに保育士（専門職）



への敬意、評価、待遇、そして研修に参加できる環境づくりも必要であり、教育センターの充実も大切である。

その他にも、関係者の大変なご努力で完成した「梶原町幼児教育構造改革」の中でも、数多くの課題が出てくる。このことは、町長、教育委員会への宿題と捉えている。

現場としっかり意見交換をしながら、土日保育、病児保育を含め、いつまでもにということを考えながら、専門家、保護者と課題解決を具体的に進めていく、検討する場所づくりが必要である。本町の幼児教育の基本的な考え方、捉え方をどのように考えているのか。

また、本町は保育料を無料化したのが、乳幼児を家庭でがんばって育てている方々の支援もしっかりと考えるべきである。

教育委員会、保健福祉支援センターとの連携も十分と考える。

そして本町の宝であり、本町の未来をつくっていく子どもたちを、地域の大人がしっかりと見守っていく意思、覚悟を示す「梶原子ども条例」の制定を検討する時期ではないか。

町長 矢野富夫

幼児教育が全ての教育の原点であり「梶原人」を育てる基本は幼児教育である。しっかりと質の高い教育を提供し、小学校につながるいき、その基本方針をもって取り組んでいく。「構造改革」の中で課題を抽出し、それに伴う改善点も提案を

いただいている。

教職員、教育委員会、保護者が共有する作業、保護者、園、委員会が一体となり定期的に議論する仕組みをつくり、その中でこのためにこのような施設、配置、組織があるんだというふうにつながっている議論をしなければならぬと考えている。「教育センター」の充実をはかり環境整備を整えながら、心の教育を含めた「梶原人」づくりをしていく。

「子ども条例」を高知県が制定しているのので、その普及を含め「町民憲章」という大きな方向性の中で町民に伝えていく。

教育長 久保栄八

町長が言いました幼児教育の基本的な方向性を踏まえ、一貫した教育体制の確立に向けて取り組んでいく。

本年度より構造改革と幼児教育計画を策定した。今、課題といわれていること、周辺の整備、体制の充実、良質な給食の確保、向上を含め、教育委員会がリーダーシップを発揮しながら、現場の声を聴いていく。できるだけ速やかに具体化する必要があるものは、予算化できるよう町長部局と協議し、向こう2年間、具体的に実践していく中で改善に向けて取り組んでいく。

教育アドバイザーについては、後任を人選させていただきたいが、方向性が出ていますので、まず現場が当事者意識を持ち、主体的に取り組んでいくことが大事である。



地域の資源全てが学びの場（森の幼稚園）

一般質問

今後の農業振興の方向性は

問 下元秀俊



問 一次産業は本町の基幹産業である。

その農産業の衰退が著しい状況であるが、施設園芸を中心としたJA系統出荷、少量多品目、小規模栽培など梶原町の農業は多様な形態が混在している地域の農業の現状をふまえて、この1年余の生産者や関係者との議論を経て、今後どのように農業の振興を図っていくのか。

町長 県内における農業産出額は34市町村中34位という厳しい数字であるが、梶原町の農業は可能性のある産業であり、国土の保全、災害時の食料自給という面からも、自給率100%を目指していきたいという強い想いを持っている。これまで津野山農協、農業振興センター、津野町と

答 町長 矢野富夫

「ヤル気」を持って取り組むグループ、人材育成をしていく

もに地域営農連絡協議会を発足させ活動をしてきており生産、販売、産地作り等のプロジェクトの中で議論をしながら取り組んできた。

1点目は、JAを通しての系統出荷販売という方法であり、2点目は少量多品目でやる気のあるグループを作り、町外に販売をしていく方法。3点目は、少量多品目で町内の直販所にて商品を販売していくという方法が考えられる。また、昨年設立した「農林業をいかにお金にかえるか考える会」の中での提言もいただいた。この提言を實現していくうえで県一農協への方針決定ということもあり、危機感をもつ

て農協の計画作り等の意見も聞きながら、有るべき姿を求めていく。

また、暮らしの安定と産業の振興発展した社会を実現するためには「人づくり」が必要であり、産業を担う人材の育成、地域の中でやる気を持つて進めていく体制づくりと、人材支援や流通体制への支援もしていく。そのために対策も農協、商工会、森林組合、行政での議論を煮詰めながら進めていく。

問 「農林業をいかにお金にかえるか考える会」の中で要望のあった「コーディネーター」の設置についてスピード感を持って判断すべきと考えるがどうか。



1億円産業を目指して取り組む椎茸

町長 この会の中でコーディネーターの条件として利害に係りなく安定した収入を確保し、選任できること、また、生産者に指導でき、地域の状況も把握し農業の知識も持っていること、このような条件が必要であるとされる。

国土保全という観点から農業委員会に依頼し農地台帳の整備も行い圃場整備、水路の補修など予算計上している。生きがいとしての農業、産業としての農業それらのやる気のあるグループを募るといったことが条件となっているので議論の上で行政としての効率的、効果的な支援をしていきたいと考える。

議会運営委員会

議会運営委員会は、これまでの「望ましい議会のあり方」の検討から前進し「品格と存在感のある町民に信頼される議会」を判断基準に議会活動を判断基準に議会活動を委員会活動、議員活動を執行することを議会改革とし、定数や報酬の削減のみを改革と称して進めていく「小さな議会化」でなく、町民にとって役に立つ「機能する議会」への改革を目指し、次の時代、将来を見据えた議会改革に向けて

①委員会のあり方
 ②議員報酬の見直し
 を主とした調査検討を行っている。

現在の議員定数は8人であり、それに伴い各委員も4人として積極的に委員会活動も行ってきたところだが、議会基本条例や委員会条例に照らし合わせ考えたとき、現在のままの委員会が良い



左から西川委員・下元副委員長・二宮委員長・中岡委員

のか、改善すべき点がある。しかし、かを検討する。また、議員報酬については、何に基づいて適正な額であるのか検討する必要がある。はしないか、議員の活動に対して正当な報酬額がいくらかなのかというところが、報酬額を決めるときの判断基準であり、議員の活動とは関係ない財政面から検討と

いうことなく、活動に見合う報酬額、報酬額に見合う活動を議会改革の一環として検討する。

- 委員長 二宮近雄
- 副委員長 下元秀俊
- 委員 中岡俊輔
- 〃 西川慶男

総務教育厚生常任委員会

総務教育厚生常任委員会は、まず、若者等の定住と教育文化の拠点として町立図書館の役割と可能性を調査検討することからはじめる。

その後については、白紙に近い状態ですが、その都度、調査の重要性や町施策への反映など検討し、柔軟に委員会活動を実施していくこととしている。

今回は、数年前に週刊誌やテレビ等で紹介されていた長野県下條村の低廉化住宅施策や高校生以下の医療費無料など一時は人口が増加（現在は微減）し、出生率も高い村の成功している若者定住について、同様の施策を展開しながらも、なかなか定住人口の増につながらない本町との違いについての調査と併せて、まちづくりで有名な長野県小布施町のライブラリー・



左から西川委員・中岡委員長・土釜副委員長・二宮委員

オプ・ザ・イヤー二〇一一大賞を受賞している図書館「まちとしょテラス」の視察調査をはじめとする町立図書館のはたす教育文化のまちづくりへの役割と可能性について。

町に図書館があることによつて、町民の心も豊かになり多種多様な情報を得ることも、学ぶことも、そこで得た知識を知

恵につなげ行動するためにも大きな役割を果たす場となり得る経済も活性化させる魅力的でわくわくする図書館について、調査を実施する。

- 委員長 中岡俊輔
- 副委員長 土釜 清
- 委員 二宮近雄
- 〃 西川慶男

産業建設常任委員会

産業建設常任委員会は、第6次総合振興計画の6つの柱である「産業」に注目し活動を行う。

雇用の減少、人口流出、少子高齢化、産業の衰退、経済の縮小と悪循環になつている「産業」特に農業については、高齢者も増え、新たな創造性が衰えて来ている。これは商業と違って過保護なまでの補助事業によるものかもしれない。ただし、補助金に依存し経営の自立性を喪失しないのであれば、補助金は、ありがたく受け入れ、生産から流通を意識し、そして生産者と消費者の橋渡し、つなぎ手となるコーディネートターについての将来展望と現状認識による課題解決に向けた調査検討をする。



左から高橋委員・長山副委員長・下元委員長・市川委員

「梶原千百年物語り」で一区切りとなる来年度以降に深刻な問題がある。地域経済の発展を考えれば、定住人口が増えない現状からも、交流（人・金・もの・情報）人口拡大による効果を期待することになり、そのためにも地域の魅力を再構築し、創造して発信する必要がある、地域全体として取

り組んでいけるよう、「観光・交流」の核となるような一元化した組織づくりについて調査検討をしていく。

- 委員長 下元秀俊
- 副委員長 長山和幸
- 委員 高橋基文
- 市川岩亀

議会広報編集委員会

議会広報編集委員会は、

- ① 議会だよりの発行意義としてある、議会活動を正しく理解してもらうこと。
- ② 「編集とは」を考え、①を意識した「議会だより」を目指し、読者と議会、議員をつなぎ、間違いなく内容を理解してもらうため工夫をする。
- ③ 「議会だより」で何を伝えるかを明確化する。

そのためにも、より町民の立場に立って、町民をはじめ読者の皆様が、まずは、手にとって、そして見て読みたいくなるような紙面づくりに取り組んでいくこととし、そのために必要な研修や調査を積極的に実施していくこととする。

読者の皆様も「こうしたら読みやすいのにと



前列左から西川委員・長山副委員長・土釜委員長・中岡委員、後列左から下元委員・市川委員・二宮委員

- 【連絡先】 議会事務局
電話／0889-651111
- 委員長 土釜 清
 - 副委員長 長山和幸
 - 委員 下元秀俊
 - 二宮近雄
 - 中岡俊輔
 - 市川岩亀
 - 西川慶男

燃油関係の課税免除措置の 恒久化等を求める意見書 決議

燃油関係の課税免除措置の恒久化等を求める意見書

軽油引取税における課税免除措置は、これまで農家の経営に貢献してきたが、地方税法の改正によって、このままでは平成26年3月末で廃止される状況にある。

また、昨年末以降、施設園芸用A重油の価格は急騰しており、持続的発展が可能な農業の中心となる大規模経営を導入しているような担い手農家ほど、農業用加温用A重油をはじめとする燃油の使用量は多く、すでに経営努力では賄いきれない燃油・資材等の価格高騰が続いている。

一方で、そのコストを価格転嫁できず、逆に、農産物の価格下落が起きており、大変厳しい経営環境にある。

現行の燃油関係の税制措置がなくなれば、いまでさえ困難な農業経営への負担は避けられず、軽油およびA重油を大量に使う畜産農家や野菜・園芸農家をはじめ、農業経営への影響は深刻であり、制度の継続は、地域農業の振興と食料自給率を向上させる観点からも有効であり、その継続が強く望まれている。

また、震災等を契機に、安全・安心な食料の安定供給の必要性についての国民認識の高まりがみられ、その期待に応えるためには、担い手を中心とした持続的発展が可能な農業づくりが不可欠である。そのためにも、さらなる生産コストの増加を避けたくうえで、農業者の所得確保を強力に図る必要がある。

このため、軽油引取税の課税免除措置及び農林漁業用A重油に対する特例措置の恒久化などについて次の事項を要望する。

- (1) 燃油価格の急騰に対する緊急的な価格抑制措置を講じること。
- (2) 軽油引取税における農業用軽油免税制度について恒久化するとともに、免税対象を拡大すること。
- (3) 農林漁業用A重油に対する石油石炭税の免税・還付措置を恒久化し、生産コストの低減による農業者の経営安定等を確実に担保すること。
- (4) 地球温暖化対策につながる燃油消費量の削減については、農業者の負担が一切増加しないよう万全の措置を講じること。

以上、地方自治法第99条の規定に基づき、意見書を提出する。

提出者 下元 秀俊
賛成者 長山 和幸
 市川 岩亀

上記意見書を賛成全員で可決し、内閣総理大臣、財務大臣、経済産業大臣、農林水産大臣、環境大臣及び県選出国會議員6人に意見書を提出する。

届けたい

伝えたい

思いが

そこにある

5月1日の臨時会において正副議長選挙があり、

高橋基文議長、西川慶男副議長が、それぞれ当選いたしました。その選挙時に思いをもって立候補した演説（所信）について、町民の皆様もお二人の思いを共有していただけたらと思います、その全文を掲載いたします。

議長

今回、議長選に立候補させていただきます。高橋でございます。

まず、始めにお断りをしたいと思っております。私もここに立つのに当たって、いろいろな思いがありました。

二宮近雄議員におかれましては、立候補するとういうふうな意思が、その当時、今も、あるというふうに思いますけれども、その中で、私も協力をしようというふうなお話もさせていただきました。

その中においても、やはり、この議会基本条例を制定して、2年になります。私もその中で大きな思いがあつて、基本条例を一緒に制定をさせていただきますました。

議員の任期は4年でございます。次のことを考えず、一生懸命この4年間をまい進しなくては行けない。そして、後援をしていただいた方にも、このまま、言いつばなしなのか、というふうなお声もいただきまして、私が出る決意を決めさせていただきます。いただいたところでもございます。

私は議長という職というのを、私自身、こういうふうにご考えておるところであります。議長は議員の長（おさ）と書いて、議長というふう呼びますけれども、トップ・オ

ブ・ザ・マウンテン、山の頂上ではないというふうには私は思っております。一人ひとりが推薦をしていただいた方の思いを背中にしようとして、当選をされております。その一人ひとりを、背負った方々を一つひとつの輪で、私は結んでいく、つないでいくのが、議長の仕事だというふう

に考えております。最終的には、その輪が3千880余りの思いとなつて、議会の良い議論ができる。最終的に町民の方々にとって良い議会、良い結果が私は生まれてくると。

私は、そういうふうな議会にするのが、議長の仕事だというふうな思っております。どうぞ、この役目を、この私にさせていただきます。ただけないでしょうか。どうぞ、よろしく、お願いを心より申し上げ、立候補のご挨拶とさせていただきます。

そんな中で、今回、こういう組織替えでありますから、議員の皆さんもさまざま、いろいろとごきしゃくもしておりますけれども、本日が終われ

副議長

この度副議長に立候補のご挨拶を申し上げます。

安倍内閣が発足いたしました。国もおつきな補正、10兆円の補正を組みました。そして、同時に円高そして株高騰等の中で、景気の兆しも見えてきておるわけでありませ

ますと、非常に厳しさは変わりありません。一次産業振興の中でも、林業・農業・商工・観光等の関係を考えてみても、大変厳しい状況であります。

こんな時こそ、我々、町民から選ばれた議員が、議長を中心とし、結束して、この安心・安全で住めるまちづくりの構築のために、しっかりと取り組んで参らなくてはならないというふうな思いをいたしておるわけであり

ます。そんな中で、今回、こういう組織替えでありますから、議員の皆さんもさまざま、いろいろとごきしゃくもしておりますけれども、本日が終われ

ば、この議員が心を一つにして、思いやり、支え合いの中で、しっかりとした議会活動をしなければならぬというふうにも考えておるわけであり

ます。 ちようど、議会等の任期も折り返し地点が参りました。

そういうふうなこともかみ合わせながら、やはり、議員同士の心を一つにできるような、パイプ役としての役割を私は果たして参りたい。そのことにより、町民の負託に応えるしっかりとした方向性がおのずから、1つにして構築できるというふうな信じております

から、そういうふうなことをおつきな動きとし、今回、副議長に立候補した思いでありますので、どうぞ皆様方の温かいご理解、ご協力を心からお願いを申し上げます。誠に簡単、言葉不揃いでございますけれども、お願いの心はしっかりといたします。

よろしくお願いいたします。

あとがき

今年の梅雨は、空梅雨ではじまり、農作物等への水不足も心配されておりましたが、6月後半には、まとまった雨になり水不足も解消されました。

梅雨が明ければ暑い夏の到来です。気象庁の3ヶ月予想では、気温は高め、降水量は平均並みとのこと、お体には充分お気をつけください。

さて、5月に臨時議会が開催され、新たな組織で活動することとなりました。

広報発行については、より身近なものに感じていただく紙面づくりを心がけて編集していきます。皆様に見て、読んでもらえるような「四万十源流」にしたいと考えておりますので、今後ともよろしくお願いいたします。

土釜 清 記